

学校教育計画（令和6年度～令和9年度）

学校名	小田原高等学校	課程・学科 教育部門・学部	全日制・普通科
-----	---------	------------------	---------

1 学校のミッション

- 全日制の課程単位制普通科を設置する高校として、生徒の特性や地域・学校等の実情を踏まえ、年次ごとに共通に学ぶ科目を設けつつも、多様な選択科目から生徒が選択履修することができる単位制の利点を生かしながら、生徒一人ひとりの学習や進路等の目標の実現に応えるよう、学力の育成、豊かな人間性や社会性の涵養、社会的・職業的な自立等をめざした教育課程を適切に編成する。
- 高い知性と教養をもち豊かな発想と創造性を備えた、明日を担う人材の育成をめざし、物事を多面的・多角的に捉え、論理的に思考する能力や、自ら学ぼうとする態度、互いに学び合おうとする態度等、グローバル化が進展する社会に求められる資質・能力を育成する教育に取り組む。
- 次世代のリーダーに求められる、自ら課題を発見し、他者と協働して解決する問題発見・解決能力や論理的思考力、答えのない問題に対応するための教科の見方・考え方を活用する総合的な思考力・判断力・表現力等を育成するよう、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて不断の授業改善を実施するなど、教育活動の充実に取り組む。

2 学校教育目標

- 高い知性と教養を持った、明日を担う人材の育成
- 豊かな発想と創造性を備えた人間の育成
- 健康で心豊かな人間の育成

3 計画策定時点での課題

- 令和5年度に指定された「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」としてのミッション及び令和6年度から指定された「学力向上進学重点校」としてのミッションを学校全体で達成していくための迅速かつ柔軟な組織運営体制の構築
 - ・ 生徒への意識喚起
 - ・ 効果的な情報の収集・共有
 - ・ 生徒の主体的な取り組みを促すための指導方法の開発
 - ・ 全職員での意識共有かつ機能的な研究体制の整備

4 4年間の目標と主な方策

	視点	4年間の目標	目標達成に向けた主な方策
1	教育課程 学習指導	○これからの時代に必要となる様々な資質や能力の育成を目指し、「SSH」「理数教育推進校」「学力向上進学重点校」としての役割を踏まえながら、カリキュラム・マネジメントに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・SSHとしての本校独自の教育課程の検討及び進路実現のための講座編成や時間割を作成する。 ・探究活動を中核としたサイエンスプログラムを実践し、科学的探究力、協働力、創造力を育成する。
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ○学校行事、部活動、委員会活動をさらに充実させ、その活動を通じて人間形成を図り、全人教育を実践する。 ○生徒一人ひとりの個を尊重した支援体制をさらに充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や部活動等で生徒が課題を見つけ、話し合い等を通じてこれを解決する力を育成する。 ・教育相談全体支援会議で支援を必要とする生徒の情報を集約し関係職員と共有しながらより適切な支援を行う。
3	進路指導・支援	○生徒の第一希望の進路を実現できるよう、目的意識の強化と学習意欲のさらなる向上を目指し、各種模擬試験等の分析を活用し、自立的なキャリア形成を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習への取組み状況や進路希望情報を教職員で共有し、面談や進路説明会等で保護者とも共有することできめ細かな進路支援を行う。 ・卒業生や社会人の講話等のキャリア行事を通して、将来への目標意識を高める。 ・補習、講習及び実力試験等の学習支援を通して実力を伸ばし、難関大学への進学意識を高める。
4	地域等との協働	○地域との協働を推進し、地域から信頼される学校づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や行政（市防災安全課）等と連携し防災訓練、研修会等を実施する。 ・地域貢献活動等を計画し、生徒の積極的な参加を促す。 ・ホームページを充実させ、日々の教育活動をより積極的に発信する。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ○地域や外部機関との連携を進め、教職員の専門性の向上を図り、SSH事業をさらに充実させる。 ○風通しの良い、働き甲斐のある職場づくりを進め、事故・不祥事防止を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の活用及び地域や外部関連機関等との連携を通して教職員の専門性を高める。 ・職員間のコミュニケーションの活性化、同僚性の向上、事故・不祥事ゼロに向けて、研修会等を実施する。